

研究内容説明文

持続可能な開発のため、災害リスクの低減と生物多様性の保全は、世界共通の課題であり、自然を基盤とする解決策（Nature-based Solutions: NbS）の概念に基づく生態系の保全・再生を包含した流域治水の実現が求められている。しかし、高温多湿で生物多様性が高く、人口密度が極めて高いモンスーンアジアにおける計画論や評価法は確立されていない。本研究では、開発行為による浸水被害の増大及び生態系の劣化が著しい、マレーシアの都市化流域を中心に、高時空間解像度の水文観測及び生物相調査から、①土地利用の改変をはじめとする人為影響が洪水流出及び生物多様性に与える影響を解明し、②水災害の被害軽減と自然環境保全を実現する流域治水対策案を提示する。流域治水に生態系の保全・再生の概念を組み込み、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「Nature positive」の実現を目指す。

